

笠間焼

笠間市は江戸時代から続く伝統的な焼き物、笠間焼の産地として有名です。笠間の粘土は鉄分を多く含むために赤褐色で、可塑性に優れているため、ろくろによる成形技術が発達し、昔は水がめや茶壺、すり鉢、徳利などの日用雑器が作られていました。

現在、笠間市には多くの陶芸作家が集まり、伝統工芸品に加えてオブジェや装飾品、照明器具、陶板からコンテンポラリーアートまで、自由な制作志向で活動しています。

砂丘ガーデンは、郷土の特色を反映させるため、計画段階から笠間の陶芸作家たちと検討を重ね、整備されました。ガゼボの瓦と床面タイル、エレベーターホールの床タイルなど、斬新な作品が完成し笠間焼の新たな魅力が披露されています。

砂丘ガーデンには登り窯を備えた陶芸広場をつくり、みなさんに陶芸活動の場を提供しています。土とふれあい、陶芸家の指導による作品づくりを楽しんでください。



登り窯



陶芸棟

グリーン工房

砂丘ガーデンでは、植物を植栽して見せるだけでなく、園芸や陶芸、流木アートといった創作活動の場を提供することにより、新たな海浜文化を創造していくことをめざしています。グリーン工房はその活動の中心施設となる建物で、バリアフリーで設計されており、車椅子の方や目の不自由な方でも利用できるようになっています。

また、大小2つのクラフトルームなどがあり、隣接する陶芸広場や登り窯、さらに園内の5つの小ガーデンをあわせ、利用者のワークショップ活動の拠点として活用されます。



ガゼボ

公園内の自生種に限らず、磯や海浜部集落で見られる身近な植物を植えています。

砂礫ガーデン

自然のままを見せる「サンドガーデン」よりも、「砂礫ガーデン」はもっと人のかかわりのある身近な植物を見てもらうところです。海岸の集落は、防風林や小丘の背後に、強い潮風から身をひそめるようにしてかたまっていきます。そこは人々にとっても植物にとっても安らげる空間ですから、さほど潮風に強くない植物もよく育ちます。田や畑がマツ林に囲まれるようにして広がっています。

砂礫ガーデンは、そんな集落のまわりに、昔から受け継がれてきた植物や、畑に逃げ出して旺盛に咲き誇っている草花などを、さりげなく植え込んでいます。

砂浜と磯浜とが合わさったような景観を見せる礫の多い小丘に、磯のハマギクやイソギクなど、観賞価値の高い草花を中心に、丈夫な草花類を組み合わせています。



サイレントギャラリー

サイレントギャラリーは屋外と屋内が一体となった建物です。ここでは、目を閉じ、松風に耳を傾け、しばしの休息を楽しんでください。都会の喧騒を離れて、ゆっくりと静かな空間を堪能していただけます。



心静かに楽しみください

香りの谷

砂丘ガーデンのピーク、「松風の丘」から下る傾斜の裾部にあたるこの場所を香りの谷と名付け、上からも眺めて楽しめる沈床花壇形式のハーブガーデンをつくりました。傾斜地の樹木が周囲を囲み、周壁の役目をして風の動きを弱めるのでハーブには格好の環境です。何種類もの香りがミックスされて立ち込め、リフレッシュさせてくれます。

ハーブガーデンに下っていくには階段のほか、介護者の同伴により車椅子利用の方も通れるゆるやかな坂もございます。



ハーブの花と香りをお楽しみください

砂丘ガーデン

知ろう！

学ぼう！

MAP

砂丘ガーデンのものをしりになりましょう!!

- 歩道
- 階段
- バリアフリールート
- サイクリングロード
- デッキ
- 屋外陶芸
- トイレ
- 飲料自販機
- 解説板
- 駐輪場
- クイズポイント

(注:バリアフリールートとは車椅子利用可能ルート)



キツネとウサギの像

ロックガーデン

砂丘に生きる植物の魅力といえば、養分が少なく乾燥しやすい砂地で、直射日光にさらされる厳しい環境にもめげず、花や実を結ぶげな姿にあるといつてよいでしょう。これは同様な環境に生育する高山植物にも通じるものです。本来ロックガーデンとは、岩間のわずかな土壌で育つ高山植物等を観賞するために、岩石を組み上げ、高山植物が育つ環境をつかった庭園様式の一つです。

このロックガーデンは、鋭く切り立った御影石で石組みし、青空に白くそびえたつ岩山をつくりました。その岩間の厳しい環境で育つ植物を観察し、楽しむための新しい試みです。主役は高山植物ではなく、海岸の砂地でも元気に育つ植物を集めました。海浜植物ばかりでなく、球根植物や多肉植物、サボテン類など観賞価値のあるものを彩りよく植栽し、白い御影石との美しい調和を見せるロックガーデンの楽しみを紹介しています。

ロックガーデンの高さ5mの頂上部からは海が望めます。頂上部まで車椅子でも行けるように、ゆるやかなつづら折り園路にしておりますから、園路の両側に植えられた植物をゆっくり観賞し、厳しい環境に生きる可憐な花々を楽しんでください。また、みなさんの住まいのベランダや屋上などは、乾燥が激しく、ここと似たような環境ですから、どのような植物が適しているか、栽培のヒントにもなるでしょう。



グラスハウス

グラスハウスは砂丘から少し内側に入ったマツ林との境に建つ総ガラス張りの建物です。前面はガラス越しに海のパノラマが広がり、手前に設置された円形の人工池の水面との連続によって、海への広がり眺めを楽しむことができます。モダンな明るいラウンジは、まるでガラスのカプセルの中のような異空間の居心地です。

6月ごろ、池の周りに、数匹のヒナを連れたカルガモの姿が見られるかもしれません。ゆったりとした春の波、スカシユリが咲きカゲロウが燃え立つ夏の浜辺、さまざまな海浜植物が味わい深く色づく秋の砂丘、白波が立ち冷たい風が吹き荒れる冬の海…。海辺の四季を、このガラスのカプセルの中からゆっくりと堪能してください。



稲田石

焼き物の里として知られる笠間市内に稲田という石材の産地があります。稲田を中心に東西8km、南北6kmにわたる一帯は通称「石切山脈」と呼ばれ、江戸時代から続く花崗岩、稲田石の採掘現場で、その採掘量は日本一といわれてきました。建材用の石材から墓石まで広く利用され、稲田石の風化した成分が笠間焼の土の源ともいわれています。

砂丘ガーデンでは、稲田石を大量に用いたロックガーデンほか石垣、土留め、さらに稲田石の加工時に発生する端材を使ったセダムゲートの壁などに見られるように、リ・ユースとしても有効に活用しています。